

他大学に広がるLA（ラーニング・アシスタント）制度

他大学においても関西大学（以下、本学）のLA制度に対する関心が高まり、講演会ならびに訪問調査の依頼が増加しています（別記事参照）。また、新たにLA制度を導入した大学との間にLAの交流が始まっています。

大学の壁を越えたLAの交流

2015年度秋学期よりLA制度をスタートさせた園田学園女子大学からは、開始に先立って6月27日に本学で開催された交渉学ワークショップ（本学LAが企画・主催）にLA候補生5名と職員が参加しました（別記事参照）。また7月1日にはLAが活動する様子を参観するために園田学園女子大学の職員ならびに学生が授業（三浦真琴担当・「関西大学ピアコミュニティ入門」）を見学しました。9月14日には本学LAを対象とした研修（本学教職員が企画・別記事参照）に園田学園女子大学より21名のLAと職員1名が参加しました。園田学園女子大学LAの内訳は人間健康学部の学生が13名、人間教育学部の学生が8名、4年生が2名、3年生が10名、2年生が9名でした。この研修は本学におけるLA制度の成立とその後の経緯などを説明した上で、LAに必要な心構えを当事者に考えてもらうようにデザインされたものですが、他大学のLAにとっても示唆に富むものであったとの感想をもらいました。

主催：関西大学 教育開発支援センター

ラーニング・アシスタント

LA研修

9月14日 月
13:00～16:00

第2学舎 2号館 3階 C302教室

【対象】
ラーニング・アシスタント（新規LA含む）

【内容】
LA業務に関する説明やLA同士の意見交換など

【持物】
筆記用具、雇用関係書類

【その他】
LA研修会の出欠確認を
インフォメーションシステム「申請・アンケート」
フォームから【9月7日（月）まで】に必ず登録

全員参加

園田学園女子大学の
教職員と学生が
見学に来ます！



10月10・11の両日には本学のLAが企画した研修合宿が高槻キャンパス高岳館を会場に実施されましたが、そこに園田学園女子大学のLA4名と職員1名が参加しました。その研修合宿について本学のLA2名が報告します。

LA研修合宿 2015年10月10・11日

私はLAになって3年目になる今年、初めてLA合宿の運営に携わりました。4年生の私は今までLA業務は積極的に活動してきたものの、LA主体で行う勉強会等の研修や合宿には参加するのみで、企画運営はしたことがありませんでした。しかし卒業を目前に3年間頑張ってきたLA活動に恩返ししたいという気持ちから、下級生にまざってLA合宿運営委員となりました。私が合宿の中で主に担当したのはサブテーマである「LAのつながりをつよめよう」を目的としたワークです。LA業務にはマニュアルがない分LAとしてどのように授業・受講生と関わっていくか常に自問自答を繰り返しています。私はその度に先輩、同期に相談をしてきましたが、これできていたのも合宿や研修の参加でLA同士の縦と横のつながりがあったからだと思います。そこで私はこの合宿を通して、これからLA活動を中心となって進めてくれる後輩たちが担当授業を超えて業務に関する相談が気軽にできる環境を作ることはもちろん、LA活動が今後より充実したものとなるようワークを考えました。

今回の合宿には園田学園女子大学のLAさんも参加してくださり当初は緊張した空気がありましたが、最後には大学、学年、学部、担当授業を超えて笑顔で話し合う様子が様々な場面で見ることができました。合宿後に開催されたLAの自主的な会にも多くのLAが集まり、合宿の目的は達成されたように感じています。私は参加者の立場から一念発起し運営の立場でこの合宿に携わり、今まで接点のなかったLAさんと学年やLAの勤務年数は関係なく共に悩み、議論し合い1つの合宿を作り上げたことで、4年生の今でも新たな学びとたくさんのよき仲間ができました。毎年メンバーが変化するLA活動には常にLAのつながりが必要だと思います。研修や合宿に参加して満足するだけでなく、運営の立場に立ってこそ得られるものを1人でも多くのLAさんにも得てほしいと思います。(本学文学部4年 鈴木 香帆)

初めてのLA合宿運営委員。わたしにとって、「仲間と共に誰かの学びのために何かを考える」ということは大きな経験・学びとなりました。

わたしは今までLAとしての勤務は少しずつ重ねてきたものの、自分を中心となって何かを運営するということはありませんでした。そのため、昨年度の運営委員の方からお誘いを受けた時は、「私に務まるのだろうか…。」と正直不安でした。しかし一方で「せっかくの機会だから…!」「他の方もいるし大丈夫!」という気持ちも大きかったのを覚えています。

他の運営委員・サポーターと話し合いを重ねながら準備をしていく中で大切にしたいことは、「こんなワークをしてみたい」「こんなメッセージを伝えたい」と思うことがあってもひとりよがりのワークにはならないようにすることでした。ワークは参加者の方がいてはじめて完成するものだということを常に意識しました。合宿当日は運営委員・サポーター一丸となって、「みなさんが楽しんでくれるように」「『来てよかった』と思ってもらえるような合宿になるように」そんなことを考えながら運営に励みました。

わたしが運営委員を頑張れたのは共に考え、悩み、笑いながら歩いてきた仲間がいたからこそだと思います。「自分一人だけじゃない」、「困ったときには相談できる仲間がいる」そう思えた時に発揮できる力というものを体感しました。これからもLA活動ではもちろんのことそれ以外の活動でも「仲間の力」を大切にしていきたいです。(本学文学部3年 井本 果歩)

また、この合宿に参加した園田学園女子大学のLAからは次のような感想が寄せられました。

私がLAやってみようと思ったきっかけは、よりよい大学づくりをめざして様々な活動を行っている学生FD委員会の活動を去年から始めた影響が大きい。

学生FD委員会では毎年「授業改善」をテーマとした「授業について話し合う会」が行っており、この会の中で、園田学園女子大学は学生が主体的に学べる授業が少ないことが問題点の一つとしていつも挙げられている。資格取得を目的とした学科が多いこともあり、授業の多くは一方通行のものばかりで、学生が自ら学ぶための取り組

みが行われていないと多くの学生が感じているのが実情である。

そんな中、私は関西大学で取り組まれているLA活動のことを知った。それは学生が主体的に授業に取り組めるよう自分たち学生が学生を支援する制度であり、自分たちの力で何かを変えることができるかもしれないという部分に大きな魅力を感じてLAをやってみたいと思うようになった。

その後1年間にわたり、関西大学の三浦先生やLAの方にお話を何度も伺い、LA研修やLA合宿にも参加させていただきながら、グループワークの進め方やファシリテーターの役割・重要性、学生との関わり方などとても多くの大切な事を学ばせていた。

その過程で自分自身に対する課題、特にコミュニケーション力不足について思い知らされたことは自分にとっては大きな成果だった。大学に入り、授業や学生FD委員会の経験を通して自分の言葉にして話すことができる程度にはできるようになったと思っていたが、関西大学のLAの方と接する中でその認識は大きく崩れた。自分の考えていることや思っていることをわかりやすく言葉にして相手に伝える力はすぐに身に付くものではないが、将来身につけなければならない力として大切な力であるため、これからさらにLAとしての経験を重ねて成長できればと考えている。

園田学園女子大学は、関西大学とは規模やカリキュラムなど大きく異なるため、学ばせて頂いたことをそのまま実行するのではなく、LAの取り組み方も本学に合わせたものに変える必要がある。そのためにも、今後さらに関西大学の方と交流をさせていただき、知識やスキルを高めながら、自分自身の手で新しい本学の教育の姿を見てみたいと思っている。

(園田学園女子大学 人間健康学部 食物栄養学科3年 学生FD委員会・LA 廣谷 楓)

園田学園女子大学の事務職員からも次のようなレポートを頂きました。

学生の主体的な学びの実現をめざして

園田学園女子大学 教学支援部学術研究支援課
西田 英一

2015年度2学期より、園田学園女子大学においても学生の主体的な学修を確立すべく、およそ20名のLA（ラーニング・アシスタント以下LA）学生を活用した6つの授業をスタートさせることができた。これは長きにわたる関西大学の皆様の暖かいご支援の上に確立できたものであり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げたいと思う。

本学においてもかなり以前からFD活動が実践されてきたが、その実態はよくある授業アンケートの実施や数名の学生が参加して不満を述べる「授業について話し合う会」の開催といったもので、教育改革どころか授業の改善すらままならない状況であった。そんな中2014年6月に開催されたFDセミナーにおいて関西大学の三浦真琴先生のお話を伺う機会があり、その内容に大きく感銘を受けた数名の職員により本学のFD活動は大きな転換点を迎えることとなる。その後のFDフォーラムやPBLフォーラム等で三浦先生からLAについてのお話をさらに詳しく伺い、さらには実際に関西大学へ何度もお邪魔してLA学生の方のお話を伺うにつれ、学生の主体的学修の確立に向けてどうしても本学にLA制度を導入したいという想いが強くなっていったのである。

しかしながら本学は規模もカリキュラム構成も大きく異なる実学系の小規模大学である上に、本取り組みは事務職員が主体の教育改革となるためハードルはかなり高いものになるものと思えた。解決しなければならない多くの課題があったのは事実であるが、全学的な制度設計については小規模大学の事務職員には取り組みやすいという一面もあり、昨今の教育の質的転換の流れを最大限活用することで、LA制度の必要性についてはすぐに学内の理解を得ることができた。

最も大きな課題は、制度の中心となるLA学生を実績も知識もない本学では養成することができないという事実であった。そこでまず学内において授業改善を目的とした学生FD委員会を学生自治会組織として立ち上げ、FD委員の学生にまず学生FDサミットや多くの他大学とのしゃべり場等を通じて、グループ学習におけるファシリテーターの役割や重要性を体感してもらうことにした。

その下地を形成しつつ、関西大学で行われた2015年2月のFDフォーラム「Lifelong Active Learnerを養成するために」や6月の「学生版アクティブラーニング実践」、9月のLA研修、10月のLA合宿など、多くのLAに関連するセミナーや勉強会に参加させていただき、LAについて直接LAの学生の皆さんから学ばせていただいた。

自らの気づきを大切に学習スタイルは、学生の学ぶ力を信じた先にある学修支援スタイルであり、そうした皆さんから直接学ばせていただいたことが本学でLA制度を立ち上げることができた最も大きな要因であることは間違いない。

関西大学で学ばせていただいた一番大きなことは、学生が自ら学ぶスタイルが一度構築されると、それはスパイラル上に広がっていき、学生は放っておいても自ら学ぶようになるという魔法のような事実である。本学においても関西大学で学ばせていただいた数名の学生が参加できなかった学生へワークショップ形式で伝え合う園田版Learning Caféの仕組みが自然発生的にできていったことはその一例である。

これからも関西大学のみなさんから学生の学ぶ力を引き出す取り組みを学ばせていただき、園田学園女子大学の学生の主体性をさらに伸ばしていきたいと考えている。



本学 LA 企画・主催の LA 合宿研修を終えて（本学 LA の OB・OG も参加）

11月24日には、園田学園女子短期大学において、園田学園女子大学のLAが活動する授業（堀田博史教授担当・「プレゼンテーション基礎」）を本学LAが参与観察する機会に恵まれました。本学からは4名のLAが参加しました（なお、12月1日の授業は休講となったため、他の本学LAによる参与観察は中止となりました）。本学のLAが報告します。

出張LA活動報告

文学部4年 倉橋 彩乃

○日時：2015年11月24日（火）10：40～12：10

○場所：園田学園女子大学

○概要：堀田博史先生の「プレゼンテーション」の授業に4人のLAが入っており、その動きを観察することで意見を交換し合う。受講生は4つのグループに分かれて行う。各グループに1人ずつLAが入っていた。

○感想：・関大では、LAがグループにべったり入り込むということではなく、LAがいなくてもグループが回ることを目的とし、机間支援の形をとっている、スタンスが違っていた。

・グループにそれぞれが入ると、自分の入っているグループのことしか知らなくなるので固定的になると思う。

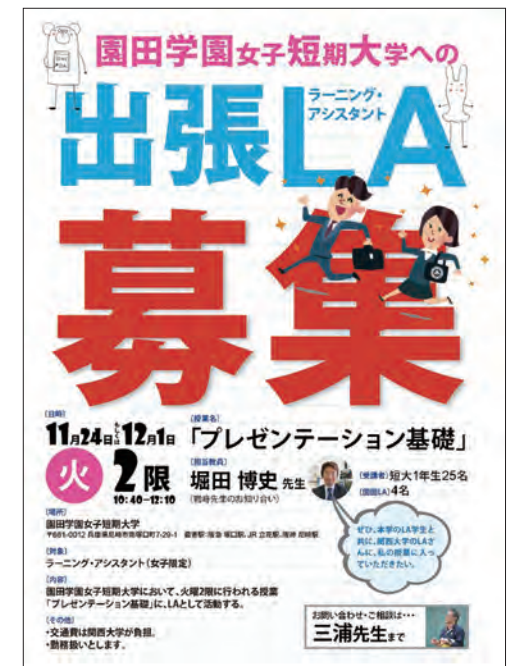
→共有をしてLA間、グループ間がつながる必要があるのではないか。

・LAが受講生と友達のような位置になっていた。これは、長所とも短所とも取れる。長所としては、LAに気軽に話せるので、受講生は先生に相談するよりも相談しやすい。短所としては、仲がよくなりすぎて、授業のポイントとなる部分ができていないときなどに注意しにくくなるなどが考えられる。

・LAは、グループの中でよく発言する人としなない人を見極めて、両者をうまくつなぐ働きをする必要がある。

→よく発言する人よりも、しない人をLAがつつくことで発言を引き出し、グループ全体が成長できるようにしたい。

・発表するなら、発表する側だけでなく聞く側へのアドバイスも必要。拍手がまばらで発表しにくい雰囲気だったので、LAが率先して拍手を促すなどして場をあたためていきたい。



◎LAは、先生と受講生の間の立場であり、時に受講生と友達のように、時に先生の指示の補足をするなど、臨機応変にどちらの立場にも立てると考える。改めて、自分自身もLAとしてのあり方を考え直す良い機会になった。

12月2日には、本学のLAが活動する授業（三浦真琴担当・「大学教育論」）に、園田学園女子大学のLA3名も参加し、グループワークのファシリテーション体験をしました。

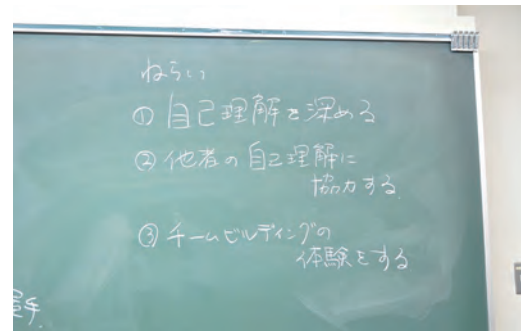


また、この日は園田学園女子大学と同じく、今期よりLA制度を開始した聖路加国際大学より五十嵐ゆかり・池口佳子両先生も授業参観のために本学を来訪されました。



（聖路加国際大学において11月12日に開催された講演会とワークショップに本学のLAと教員が招かれ、そこから両大学のLAの交流が始まりました〔別記事参照〕）。

12月12・13の両日、本学において外部業者を招いてLA研修（「自己の探究」）を開催しました。この研修は、当初、初年次学生を主たる対象としたクラスで活動するLAに、初年次学生がつつつがなく自己の探究ができるようにサポートするスキルを身に付けてもらう目的で開催しましたが、この研修を通してLA自身も自己を探究することができること〔自身の自己探求を後回しにしてしまいがちなLAに自己探求の機会を提供できること〕に価値を見出し、回数を重ねてきました。その研修にも、園田学園女子大学より8名のLAが参加（職員1名は参観）、摂南大学より1名の職員が参加（教員1名と他の職員1名が参観）、大阪成蹊大学の教員1名、大阪社会体育専門学校の教員1名、聖路加国際大学の教員1名が参観しました（本学からは20名のLAが参加しました）。両日とも午前9時30分より午後6時30分までの長時間に及びましたが、参加者も参加者も一体となって何種類ものワークを楽しみ、充実した時を過ごすことができました。



LA研修 2015年9月14日

2015年9月14日にLA（ラーニング・アシスタント）研修を開催しました。秋学期に活動するLA 32名が研修に参加しました。今回は、LAの導入を予定している園田学園女子大学のLA候補の学生18名も参加し、合計50名で研修を実施した。研修のスケジュールを以下に示す。

13:00 - 13:10 開会のあいさつ、講師紹介
13:10 - 13:40 ミニレクチャーLAの概要・心構えについて
13:40 - 14:30 自己紹介とワーク①「アイスブレイクを考える」
14:30 - 14:40 休憩
14:40 - 15:40 ワーク②「グループワークの介入を考える」
15:40 - 16:00 閉会のあいさつ・アンケート

講師：三浦真琴（関西大学教育推進部教育開発支援センター教授）
講師：岩崎千晶（関西大学教育推進部教育開発支援センター准教授）
講師：竹中喜一（関西大学授業支援グループ）

研修の目的は、①LAの業務概要を知り、心構えをもつ、②グループワークを円滑に進める際の様々な技法を体験し、説明できるようになる、③LAとしてグループワークにどのようにグループワークに介入することが望ましいのかを考える。④LA同士で友人を作り、LAコミュニティを形成するきっかけとする、以上の4点であった。

LAの概要、心構えに関しては、岩崎准教授が担当した。どういった経緯でLA制度が制定されたのか、またどのような業務内容でLAが活動をしているのかについてミニレクチャーを行った。ここではアクティブラーニングや初年次教育が導入された経緯やその意義、関西大学における初年次教育の概要についても説明がされた。またどういった役割が求められているのかについて、LAが考える機会も設けられた。

自己紹介とワーク①「アイスブレイクを考える」は三浦真琴教授が担当した。教員があらかじめ5つ1組となるキーワード（たとえば、日本の5大ドームなど）を人数分準備し、それぞれのキーワードを1つずつ印刷した紙を用意する。学生の背中にその紙を張り付け、5人1組となるメンバーを探すワークである。学生は自分の背中のキーワードを見ることはできないが、一人に1度だけその内容について質問をすることができる。学生は、人の背中のキーワードを見ながら、5人1組のグループに分かれる。これをアイスブレイクとして実施した。背中に張っているキーワードを理解し、5人1組のグループに分かれるためには、自分の背中のキーワードをあてるだけでなく、メンバーに情報を提供し、皆で力を合わせる必要がある。アイスブレイクを通じて、グループに分かれるだけでなく、そのプロセスにおいて、助け合いの気持ちを学ぶことを取り入れたワークを実施した。

その後は5人1組のグループに分かれ、自己紹介をしあった。隣に座ったメンバーの名前を漢字で書けるようにしたりし、別のメンバーに紹介するなど、単に自己紹介をするのではなく、ほかのメンバーの情報を紹介することで、相手のことをよりよく知るためのワークを実施した。

ワーク②「グループワークの介入を考える」は、岩崎千晶准教授が担当した。岩崎准教授とLA有志で作成した「グループワークにおける課題」に関する動画を研修教材として使用した。教材では、学生4名がグループワークをしている様子をうつしだしている。LAは、この様子を見て、グループワークにおける課題がどこにあるのかをまずは個人で考え、その後グループになって、どのような課題があったのかを話し合った。個人では気が付かなかった課題も、グループのメンバーによって見つけることができたなどのこえがあげられた。また、LAは動画を見ることで、実際のクラスでのグループワーク介入に関する実感を持てたことがアンケート結果から記された。ワーク①と②をとおして、目標としていた②グループワークを円滑に進める際の様々な技法を体験し、説明できるようになる、③LAとしてグループワークにどのようにグループワークに介入することが望ましいのかを考える。④LA同士で友人を作り、LAコミュニティを形成するきっかけとする、を培うことをおこなった。

これに加えて、職員竹中喜一が担当しセクシャルハラスメントに関する研修も実施した。LAがセクシャルハ

ラスメントに関わる相談をしたいときに訪問すべき場所や教職員の連絡先を伝え、学生が課題を抱え込まずに話し合える場を常に用意していることを強調した。



ワーク①の様子



ワーク②の様子

LA交流会 2015年11月12日

秋学期よりLA制度を始動している聖路加国際大学からは、11月12日に開催された講演会とワークショップに本学のLAが招聘され、先方のLAとの交流も始まりました。聖路加国際大学の報告文と先方のLAより寄せられた感想を紹介します。

【Learner- centered Modelとしてのラーニング・アシスタント（LA）システムに関するワークショップの報告】

本学で取り組んでいます教育改革推進事業として、今年度採択されました「Learner- centered Modelとしてのラーニング・アシスタント（LA）」システムの導入」のプロジェクトにおきまして、関西大学のLA学生さんと本学の4年LA学生が交流会を行いました。

これは、学部上級生が既習科目におきまして、下級生のグループワークなどの学習サポートを行うという試みで、現在4年生17名がLAとして活躍中です。

先駆的にLAシステムを活用している関西大学より三浦真琴先生とお二人のLA学生さんにお越しいただき教職員も交えたワークショップのあと、学生主体で活発な意見交換を行いながら交流会を行いました。

学習者の主体性を引き出すことの難しさと楽しさを語り合い、とても有意義な時間を過ごしました。



【Learning Assistant ワークショップの感想 ～聖路加国際大学LA～】

自分がLAとして演習に入って色々悩みがあったのですが、今回のWSを通しLAは学生の持っている力を引き出すために働きかけをすれば良いと学びました。学ぶことがたくさんあったので、次回LAとして入るときに今回学んだ点を生かしたいです。また、関西大学ではLAが様々な授業で活躍していることを知りました。聖路加においてLAが導入されつつありますが、どの授業でどうLAを組み込むかを今後更に考えていかなければならないのかなと思いました。そして、交流会でいろいろなお話をしたことも本当に楽しかったです。今後もLA同士の輪が繋がっていったらとっても嬉しいです。三浦先生、鈴木さん、井本さん、多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。（安 奈美）

Learningとは何か、またなぜ大学に必要なのかという根本から知ることから、実際にグループワークでLAのお二人の介入の方法も見ることができ、とても貴重な機会となりました。また、意見交流会では、私たちがLAとして学生に関わってみて生じた「どこまで教えればいいのか」という疑問について、実際の体験を交えて意見をいただくことができました。看護学のなかで学ぶコミュニケーションの技法もLAとして学生に介入する

ために活用できると感じました。また、聖路加でLAを導入する意味や、どうしたらLAがもっと意義のある活発なものになるのだろうか、それに対する時間的制約について自分の中で深めていくことができました。私がLAとしてグループワークに入るのは残り1回ですが、学生から考えを引き出せる関わりができたと思います。また、私たちも看護学生以外と交流ができるという点でもとても有意義な時間を過ごすことができました。貴重なお時間をありがとうございました。三浦先生、井本さん、鈴木さん、ありがとうございました。(今村 智美)

今回、関西大学のLAについて三浦先生また鈴木さんと井本さんによるWSそして意見交流会にて本当に貴重な時間そして内容を学ぶことが出来ました。まだLAとして経験が少なく、未熟な点ばかりで初歩的な質問をしてしまいましたが、分かりやすく説明そしてアドバイスして頂き本当にありがとうございました！また機会がありましたら何かの際に、お話や意見交換したいです。残りの私たちのグループワークではアドバイス頂いたことを頭の隅に置いてより学生が主体的に活動できるようにサポートしてみます！（上原 彩香）

皆さんとお話しして、LAが素敵な仕事だなと思えました。LAが楽しまないと良い学びの場を提供できないこと、楽しむために事前に考えて十分な準備が必要なこと、大事なことをたくさん学びました。本当にありがとうございます！（柏木 早穂）

自分自身が苦勞した演習に、同じ学生という視点で何か支えることは出来ないか、と考え参加したLAでしたが、関西大学で三浦先生を始めとするLAの学生さん方で日々リフレクションをしながら、より良くなるように組織的に、しかしマニュアルを作らずにそれぞれの方法で柔軟に活動していることを知り形式にとらわれず個々に合ったアシスタントをしていきたいと改めて感じる事が出来ました。今後も、自分自身が学習すること、後輩に指導することがたくさんあると思いますが、Learningの意味を考え直しながら、学び続けていきたいと思っています。ありがとうございました。(桜田 侑奈)

私は今回のWSに参加して、最初に思っていた以上の学びをたくさん得ることができました。LAとは何か、またどのようにあるべきか、その基本的部分の知識から、自分だったらどのようにLAとしてGWに参加するかイメージしながら考えることができました。またLAをしているなかで自分にあった悩みを直接関西大学の学生の方にアドバイスしていただき、不安を解消することができました。今回のWSはLAとしてだけでなく、将来臨床で後輩の指導にかかわるであろうことも含めて、とても有意義な経験でした。今回は貴重な機会をくださりありがとうございました。(杉本 あま乃)

今回のWSを通して、LAはどのようにグループに働きかけるものなのか、役割や効果を知ることができました。グループメンバーの意見を上手く引き出す方法など、グループへの関わり方で悩んでいたことも意見交換することで、自分の中で解決することができました。グループワークで答えを出すことがLAのゴールではなく、時には失敗して学習することも必要で、見守る忍耐力もLAには求められると学びました。LAのコミュニケーション能力は就職後のコミュニケーションにも活かせられると思うので、今後も継続して学んでいきたいと思っています。貴重な経験をありがとうございました。(谷口 綾香)

LAについて説明を受け、LAがどのような取り組みなのかを知ったうえで活動開始したつもりでしたが、実際に授業に参加していくなかでLAとして自分が学生の力になれているのか自信を失っていました。今回、三浦先生の講義を受けWSに参加して改めてLAとはどのような役割を担う存在なのかを学ぶとともに、自分自身のLAとしての学生への関わり方を振り返ることができました。LAとして授業に参加することができる機会は残り少ないですが、少しでも学生が主体的に学習に取り組めるような関わりをしていきたいと思っています。自分の今後においても今回のWSに参加できたことはとても有意義な経験になりました。ありがとうございました。(萩野谷 美奈)

今回のWSに参加して、関西大学のLAさんの活動がいかに活発であるかを知ることができました。聖路加でも考えさせられる授業は多いと思っていますが、そこに同じ「学生」という立場のコーチ＝LAがいることで、さらに安心して受講生たちが自己表出をできると思いました。一方で、聖路加は看護という専門分野を学ぶとい

う点でどうしても押さえておかなければならない概論的授業も多く、LAが効果的な授業となかなかLAの力を発揮できない授業があるのでは？と感じる部分もありました。しかし、LAのような考えを引き出す人材が授業にいてことで、自分から考える・自分から発言する力がつけられると思いました。自分はLAとしてどのように後輩たちに介入していけばよいのか、coachの視点で自省しながら関わっていきたいと思いました。WSに参加してたくさんのことを学ばせてくださった三浦先生・鈴木さん・井本さん、本当にありがとうございました。(松尾 朋果)

Learningが意味することから実際の活動まで教えていただくことで、LAとして何ができるのか、何をすればよいのか考え直すきっかけにたつたと思います。看護の分野の授業で、LAがどのように関わっていけばよいのかこれから試行錯誤しなければならないと思いますが、自分たちで考えなければならない分野が多いからこそ、LAが関わる意味が大きい授業がたくさんあるのではないかと感じました。三浦先生、井本さん、鈴木さん、本当にありがとうございました。(山形 祥世)

活動が始まったばかりで、LAとしてどのように学生に関わるべきであったかなどの悩みや迷いが多かったもので、今回のWSを通してLAの介入のしかたや活動の実際について体験を持って知ることができたことはとても良い経験になりました。LAを看護大学でうまく活用していくことができれば、学生とLAの双方にとってのメリットはとても多いと感じています。まだ試行錯誤の段階ではありますが、今回学んだことを今後の自身のLAとしての活動に活かしていきたいと思っています。近い距離で、貴重なお話がたくさんできて楽しかったです。三浦先生、鈴木さん、井本さん、遠方より遥々聖路加までお越しいただき、本当にありがとうございました。(和田 瞳)

【Learning Assistant ワークショップの感想 ～関西大学LA～】

11月に聖路加国際大学で開催された「LAシステムに関するワークショップ」に、私は関西大学のLAとして参加させて頂きました。

私が印象に残っているのはLAをしている学生さんの非常に積極的な姿勢と聖路加国際大学でのLA像を模索する真摯な姿です。聖路加国際大学ではLAシステムが導入されたばかりだと伺っていたので、私がLAを始めた頃が不安でそうだったように、一方的に関西大学LAの話聞いて終わってしまうのではないかと感じていました。しかし三浦先生のLAシステムに関する学術的な観点の話はもちろん、私がお話させていただいたLA合宿についての話にも前のめりになって、興味津々に話を聞いてくださっている姿が非常に印象的でした。

ワークショップ後に行われた学生同士の意見交換会では、設けられた1時間では足りないくらいたくさんの質問がありました。どの質問も受講生の立場に立ってLAとしてもっとこうしたい、ああしたいというような、3年間LAをしてきた私がこの1年くらいの間に考えるようになった発展的なことばかりで、まだLAを始めたばかりの人々とは思えないくらい自分たちは受講生にとってどんなLAになるべきかを真剣に模索していました。

今回聖路加国際大学のLAのみなさんと意見交換をさせていただき、私は関西大学LAとして改めて気を引き締めていかねばならないなと思いました。その理由として、聖路加国際大学を含め他大学のLAさんから、私たち関西大学LAを憧れの目で見下しているように思うからです。もう一つは、LA業務に勝ち負けはありませんが、他大学の素晴らしいLAさんに出会うたびに私たちLAも負けないように頑張らなければならないと思うからです。これからも関西大学LAとして誇りを持ち受講生の為に日々邁進しようと思います。(文学部4年 鈴木 香帆)

【継続する交流】

12月2日には聖路加国際大学より、五十嵐・池口両先生が関西大学を来訪され、LAが活動している授業風景を参観されました。また、同月12・13日に開催されたLA研修会にも、両先生の他に三浦先生も見学されました。

第2回交渉学ワークショップ「模擬記者会見で学ぶ“三方良し”」 －交渉学の応用プログラム－の開催 2015年6月27日午後

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」採択の進捗・成果報告の一環として、6月27日土曜日13:00～18:00に第2回交渉学ワークショップ「模擬記者会見で学ぶ“三方良し”」－交渉学の応用プログラム－を開催しました。この交渉学ワークショップは、学生と社会人が合同参加する「交渉学ワークショップ」で、交渉学のプランナー及びファシリテーターとしてのリーダーシップを涵養するために、高度なファシリテーションを実践している社会人をTAとしてお招きし、学生の交渉学のリーダーとしてのさらなる学びの機会を提供しました。

講師構成は、一色 正彦氏（金沢工業大学大学院 知的創造システム専攻 客員教授 他）が全体進行担当を受け持ち、山本 建氏（毎日新聞社 経営企画室委員他）がヒント講義：メディア記者からの視点を担当、佐藤 洋行氏（株式会社ブレインパッド他）がヒント講義：ソーシャルメディアにおけるビッグデータの解析からの視点を担当、松本 俊明（関西大学 非常勤講師、弁護士）がヒント講義：リーガルな視点を担当しました。様々な視点で模擬記者会見のケースを多次元、多視点から分析することで、学生と社会人が合同チームでディスカッションを通して模擬記者会見の準備を体系的におこなうことができました。

ワークショップ終盤では、交渉学の授業のLAを春学期におこなってきた学生たちが企業側の役を演じ、対する記者役として、山本 建氏（毎日新聞社 経営企画室委員他）、小松 良明氏（株式会社毎日放送 編成局ライツ業務部長）、毎日新聞記者他2名による記者会見のデモンストレーションを本番さながらにおこないました。その後、一色氏に当事者の言動とその根拠について解説をいただきました。

最後に、学生と社会人の合同チームがそれぞれチームでのディスカッションを踏まえて、各メンバーが役割を決め、ロールプレシミュレーションで本番さながらの模擬記者会見を体験しました。

講演会の内容、模擬記者会見のデモンストレーションにつきましては、動画配信を検討中です。

【スケジュール】

- 13:00 - 13:15 (15分) 開会挨拶・講師紹介・趣旨説明
- 13:15 - 13:35 (20分) 模擬記者会見の狙いと進め方
- 13:35 - 14:05 (30分) ヒント講義①「記者会見と“三方良し”」
- 14:05 - 14:35 (30分) ヒント講義②「Crimson Hexagon ForSight™による分析」
- 14:35 - 15:05 (30分) 模擬記者会見の準備①（個人ワーク）
- 15:05 - 15:15 (10分) ヒント講義③「ケースの検討ポイント」
- 15:15 - 15:25 (10分) 休憩
- 15:25 - 16:05 (40分) 模擬記者会見の準備②（グループワーク）
- 16:05 - 16:45 (40分) 代表記者会見と解説（デモンストレーション）
- 16:45 - 17:05 (20分) 模擬記者会見の準備③（グループワーク）
- 17:05 - 17:45 (40分) 相互記者会見（ロール・シミュレーション）
- 17:45 - 18:00 (15分) 解説とQ & A
- 18:00 - 閉会挨拶
- 18:30 - 懇親会



ワークショップの様子



模擬交渉準備



模擬記者会見デモンストレーションの様子①



模擬記者会見デモンストレーションの様子②



模擬記者会見デモンストレーションの後の
フィードバックセッション①



模擬記者会見デモンストレーションの後の
フィードバックセッション②



チームごとの模擬交渉の様子

6月27日に学生が企画した交渉学ワークショップを開催しました。

6月27日の午前中に学生が企画する交渉学ワークショップを開催しました。「学生の、学生による、学生のための交渉学ワークショップ」というコンセプトに基づき、どのようにしたら参加してくれた人たちに楽しく交渉学を体験してもらえるかを大事にしました。

題材は「僕のいた時間」というドラマに出てくる、重い病を抱えた彼氏を持つ娘と2人の関係をあまりよく思っていない母が娘の結婚についての話し合いにしました。先生方や社会人の方が開いている交渉学ワークショップに私が参加させていただいたときはビジネスシーンを題材にすることが多いので今回のワークショップもそのようにしようかと思ったのですが、学生向けにするのであれば学生が想像しやすいシーンを題材にしたほうが交渉学の利便性などを実感してもらえんと思ったので、ドラマのワンシーンにしました。また交渉というと「ビジネスであるもの」「社会に出てからするもの」といったイメージを持たれがちですが、私が学んでいくうちに交渉学は友達との口喧嘩や親との話し合いの場でもお互いが納得のいく結果に近づくために役に立つ学問であることを感じていました。その考えからすると交渉は「日常生活でもあること」で、それをワークショップに参加する学生にもわかってほしいと思いもありました。

当日は関西大学だけでなく追手門学院大学、神戸親和女子大学、園田女子大学から参加してくれる学生がいて、合計22名が集まりました。1班3～4人で1班ずつ親と子に分かれて、親と子それぞれの目的は何なのか？相手の言葉を自分の偏った考えなしで受け取れているかなどを班ごとに考えてもらいました。最後には1人対1人の模擬交渉を行い、すれ違いを乗り越え、お互いが納得のいく話し合いを目指しました。

ワークショップ開始直後は、運営側・参加側の両学生ともに緊張した様子でしたが、アイスブレイクやグループディスカッションをやっていくうちにその緊張もほぐれ、LA(ラーニング・アシスタント)の協力もありスムーズにワークショップは進行していきました。途中で困惑な表情を浮かべる参加者もいたのですが、最後の模擬交渉であまり話せない人が出るのではないかな不安でしたが、いざ模擬交渉が始まると制限時間10分になっても話が終わらないくらい楽しんで交渉していました。模擬交渉後に感想戦といい、模擬交渉について交渉した人同士が振り返る時間をとり、お互いが意図した通りに伝えたいことが伝わっているか、合意したと思う内容に両者の中で違いはないか、この交渉をさらによくするにはどうしたらいいかなどを話し合ってもらいました。その後、それぞれのペアがどのような結果になったかを全体で共有したとき、ペアごとに違いがあり、同じ一つの題材からスタートしてもいろいろな結果が出てくるのは模擬交渉の醍醐味の一つだと思いました。ワークショップ後のアンケートを見ると、また同じような機会があれば参加したいと参加者全員が答えてくれ、とても嬉しかったです。

今回のワークショップを通じて、企画・運営した学生も多くのことを学ばせてもらった。これからも学生が学生と学びあえる場を提供していきたいと強く思いました。

(報告者：政策創造学部2年 濱走 内記)



第3回交渉学ワークショップの開催

日 時：2015年8月1日(土) 10:00-17:00

場 所：関西大学 東京センター

8月1日、東京センターにおいて、第3回交渉学ワークショップ「広がるアクティブ・ラーニング～交渉学の挑戦～」を学生主体のイベント形式で行いました。狙いは、関東地区に在住の関西大学OB・OGの方々や、最近の大学生のアクティブ・ラーニングによる学びや交渉学スキルの修得状況に関心をお持ちの社会人の方々をお招きして、学生目線のポスターセッションにより情報共有を行うというものでした。

まず、それぞれの学生が担当するポスターの前で数分の説明プレゼンテーションを行った後、視聴者は回遊形式のフリースタイルでプレゼンターとディスカッションを行うことで、相互の見聞を広め、深めました。

学生コーディネーターは、池澤 智也(関西大学 政策創造学部4年)、金田 有紗(関西大学 社会学部3年)、増田 優奈(関西大学 文学部3年)、大早 亜美(関西大学 商学部2年)、濱走 内記(関西大学 政策創造学部2年)の5名が中心となり、計10名の学部生が担当しました。

午後の部は交渉学ワークショップを行いました。講師は松本 俊明氏(関西大学 非常勤講師、弁護士)と竹本和広氏(関西大学教育開発支援センター研究員、金沢工業大学大学院 客員教授)に担当していただきました。交渉学の領域でのアクティブ・ラーニングをテーマに、社会人と学生の合同チームでプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)によるアクティブ・ラーニングを実践体験しました。

午前の部の参加者は、社会人11名(一部上場企業より)、学生15名(追手門学院大学、金沢工業大学社会人大学院、神戸親和女子大学、東京富士大学、関西大学)でした。

午後の部の参加者は、社会人28名(金沢工業大学社会人大学院OBを含む一部上場企業や第一線で活躍する弁護士)、学生15名(追手門学院大学、神戸親和女子大学、関西大学)でした。



氷上西高校で学生企画の交渉学ワークショップを開催

11月27日、兵庫県丹波市にある氷上西高校に教育推進部の山本敏幸先生と大早亜美（商学部 2年）、私の3人でお邪魔しました。約10名の高校生に交渉学ワークショップに参加していただき、教室の後ろには数名ほど先生方もお見えになっていました。氷上西高校には過去に2回ほど関大が訪れ一緒にワークショップしたことがありましたが、今回はワークショップの企画から当日の進行まで学生で行いました。

「勉強なさい!」「わかっているよ、」というよくありそうな母と子の会話を題材に、相手との信頼関係を崩さず自身の望む結果に近づける会話を目指しました。子どもが勉強をしない理由や母が勉強してほしい理由や目的についてグループごとにブレインストーミングをし、その中で子どもに対して決めつけていることが多いが実際にわかっていることは少ないことや、母の目的を達成するために「勉強なさい!」というアプローチ以外にもっとよいものがあるか考えてもらいました。

ワークショップ開始直後は私たちも参加している高校生も緊張していたようですが、アイスブレイクやワークが進んでいくうちに笑顔が増えていき、最後のほうには進行役の声が聞こえないくらい盛り上がっていました。学内でも一度同じワークをしたのですが、そのときよりも数多くの意見が出ていて感心しました。ワークショップの最後にまとめを話していた際、最前列のある女の子が真剣な眼差しで私のほうを見てくれていたので、何かが伝わったのだと実感しました。またワークショップ終了後に高校の先生から「あの子たちがあれだけ多くの意見を出している姿を見たことがないよ。」と言っていたときとても嬉しかったです。

高校でワークショップをするのは初めてで戸惑うこともあり反省点も多く出ましたが、とても楽しく良い経験になりました。このような機会を与えてくださった関西大学佐治スタジオの方や氷上西高校の先生方、生徒さんたちにとても感謝しています。次の機会があれば、ぜひまた挑戦してみたいです。

(報告者：政策創造学部 2年 濱走 内記)



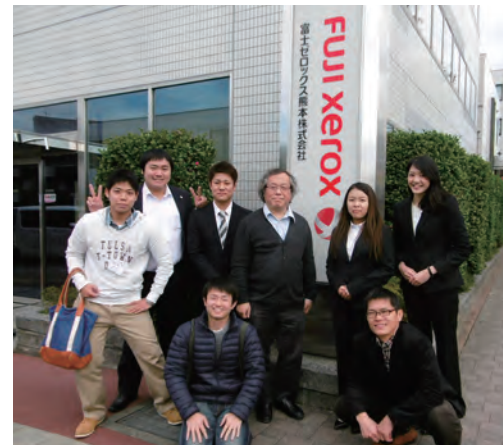
京都大学で交渉学LAが活躍

12月3日、スタディスキルゼミ（交渉学入門）非常勤講師の松木氏が京都大学の交渉学のゲスト講義をおこなっていました。京都大学「情報と知財」という授業（情報学研究科田中克己教授・谷川英和講師担当）で、著作権、特許、知財管理、個人情報保護、情報セキュリティ、情報倫理に関する分野で活躍する著名人がゲストスピーカーとして講演・討論をおこなう授業です。アクティブ・ラーニング型交渉学教育の一環として、交渉学LAの田中真奈（2年）さんが関西大学におけるアクティブラーニングの実践経験を豊かにするため、ファシリテーターとして参加しました。写真はその授業の様子です。



昨年に引き続き、交渉学LAが九州（熊本）での交渉学セミナーで活躍

12月5日、九州、熊本市にある富士ゼロックス株式会社において、VHP交渉学コミュニティ主催の交渉学勉強会がありました。参加者数は26名（＝社会人21名＋学生5名）でした。学生の内訳は関西大学LAが2名（松田、大早）、追手門学院大学1名、熊本学園大学1名、熊本県立大学1名でこれから交渉学を学ぼうとする社会人に対して、アクティブ・ラーニングによる交渉学の学びの導入と、グループワークでのファシリテーションをおこないました。



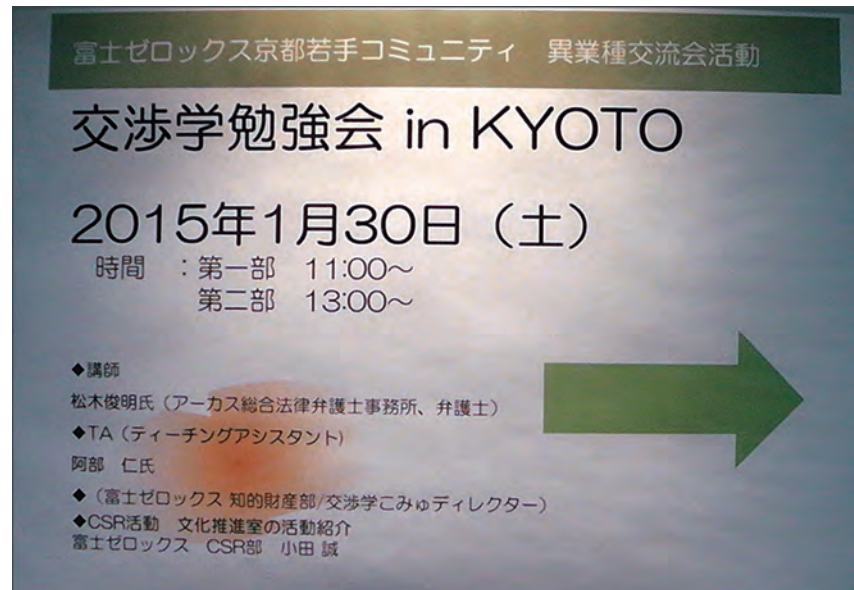
昨年に引き続き、交渉学LAが九州（博多）での交渉学セミナーで活躍

12月6日、前日の熊本市の交渉学勉強会に引き続き、博多市にある富士ゼロックス福岡株式会社で、交渉学コミュニティ主催の交渉学セミナーがありました。参加者数は26名（＝社会人23名＋学生3名）でした。学生の内訳は関西大学LAが2名（松田、大早）、追手門学院大学生1名でした。これから交渉学を仕事場で活用していかうという社会人に対して、大学生のアクティブ・ラーニングによる交渉学の学びの実践紹介、大学生生活、日常生活における交渉学の学びの活用事例を学生目線でわかりやすくスキットを交えて臨場感満載でプレゼンテーションによる情報共有をおこないました。後半では社会人と学生が混合チームを構成し、交渉学のケーススタディ事例を使い、グループワークでのディスカッション、ロールプレイシミュレーションによる臨場感ある模擬交渉をファシリテーター兼チームメンバーとして体験学習に参加しました。ここでも、日頃の交渉学、クリティカルシンキングの授業でのLAの経験がチームのディスカッションのファシリテーションに役だっていました。



本学LAが富士ゼロックス（株）、「交渉学こみゅ」主催の交渉学勉強会に参加

報告者：山本 敏幸



2016年1月30日に京都市中京区烏丸通三条西入御倉町、富士ゼロックス京都において、富士ゼロックス社員や交渉学に興味を持つ一般社会人50名が集い、交渉学の勉強会がありました。その際、本学の交渉学LA3名（政策創造学部3年・松田、文学部3年・増田、商学部2年・田中）、追手門学院大学で交渉学を学ぶ学生2名が参加しました。講師は本学でもスタディスキルゼミ（交渉学入門）の非常勤講師も担当する、弁護士松木俊明氏であった。

松木氏から初めての参加者に対して交渉学を取り巻く状況の報告の中で、大学生が取り組む交渉学の現状報告も取り上げられた。本学のLA（松田、増田）がLAとしてスタディスキルゼミ（交渉学入門）に参加した際の受講生のもつ交渉学に対する印象、学内での交渉学ワークショップで活動した経験、学外での社会人の交渉学ワークショップや勉強会に参加し一般社会人とチームを編成して交渉学のワークをおこなった際の感想を報告した。

交渉のワークでは、「対立を乗り越え、創造的な交渉へ！」をテーマに、分配型や交換型の交渉ではなく、創造型の交渉を中心に、ケーススタディを使って、信頼関係の構築について模擬交渉、感想セッション、ふりかえりをおこなった。



以下は参加した学生の感想です。

学生から一言

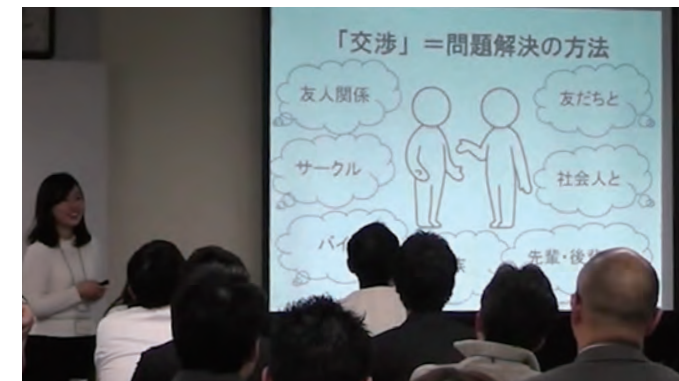
政策創造学部3年 松田 昇子

社会人と学生の発想・経験の違いを感じることでできた有意義な時間でした。学生でも社会人に影響を与えることができることを改めて感じることができました。



文学部3年 増田 優奈

日頃あまり交流することのない学生と社会人とで交渉学を学ぶことで、普段触れないような価値観や観点を知ることができました。この経験を自分の糧とし、今後も活動が続けていきたいです。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



商学部2年 田中 真奈

社会の方が何年もの仕事経験で培った力に学生は到底敵いません。しかし、「自分も学生のうちに交渉学を学んでいれば社会人になってからの成長のスピードがもっと早かった」という声を沢山聞き、改めて学生が主体的に交渉学を学ぶ価値を実感しました。



富士ゼロックス（株）東京本社にてVHP交渉学コミュニティの勉強会に本学LAが参加

報告者：山本 敏幸

2016年2月3日に東京ミッドタウンにある富士ゼロックス本社にて、富士ゼロックス社員や交渉学に興味を持つ一般社会人40名が集い、交渉学の勉強会がありました。その際、本学の交渉学LA3名（政策創造学部1年生・濱走、商学部2年生・増田、商学部2年生・田中）が大学での交渉学の現状報告と交渉学ファシリテーターとして参加しました。弁護士の視点から見た交渉学を学ぶ意義について、本学でもスタディスキルゼミ（交渉学）の非常勤講師も担当する、弁護士松木俊明氏が担当。大学での交渉学を担当する教員の立場から、大学で交渉学を本学年度、正式導入した本学の取り組みと教育目的について、三浦、山本が説明した。

交渉のワークでは、『「論理的思考」に基づく意思決定と「行動科学」に基づくコミュニケーション』をテーマに、交渉学の基礎概念を中心に、ケーススタディを使って、信頼関係の構築について模擬交渉、感想セッション、ふりかえりをおこなった。



セッション中のLAのファシリテーションの様子



以下は参加した学生の感想です。
学生から一言

政策創造学部2年 濱走 内記

私は1つのグループについていたのですが、社会人の方々も大学生と同じくケースの内容にとらわれて悩んでいる様子だったので、もっと自由に考えて良いことを伝え、私には思いつかないような具体的な意見や発想が次々として出てきて驚きつつも勉強になりました。

始めはLAとしてグループに入っても力になれるか心配だったのですが、私が質問をしたり意見をまとめたりするとグループ内の議論が進み、お役に立てて嬉しかったです。

商学部2年 大早 亜美

私は交渉前には、受講生の方々に疑問点を挙げてもらったり、考えを深めてもらうために相手に質問したい内容を考えてもらいます。今回社会人に行ってもらったところ、グループワークで1枚の紙に情報を書き状況把握をしているグループはスムーズに交渉を進めていたため、様々な考えを聞き知見を広げることの大切さが改めて分かりました。

商学部2年 田中 真奈

普段のLA業務ではまず状況を察したり質問を重ねたりして、受講生のつまずきを聞き出すところから始めます。しかし社会人の場合には、「ケースのどこが分かりづらかったですか？」など最初の声掛けで、「分からないのが2点あって、1つめは、」と説明してくださいました。なんでも理解することよりも、自分の疑問点を認識しそれを言葉で伝えられる力の方が重要だということを、LA勤務を通して受講生に伝えていきたいです。

ラーニング・コモンズでラーニングCaféをOPENしています！

教育推進部 佐々木 知彦、岩崎 千晶

教育開発支援センターでは今学期も毎週水曜日に「ラーニングCafé」を開催しています。「ラーニングCafé」は、アカデミックスキルを学ぶミニ講座・ワークショップとして2013年度にスタートしました。以来、リーディングやプレゼンテーション、ノートテイクなどのテーマで開催してきましたが、今学期は、単にスキルを身につけるだけでなく、そのスキルをどのように自分の学びに活かすかを考えるような内容へと、少しずつバージョンアップを図っています。

また今学期は図書館と共催して、図書館ラーニング・コモンズ、ワークショップエリアにおいてラーニングCaféをOPENしています。図書館に開設された新たな学びの空間に、学習支援の息吹を吹き込み、学生たちの主体的な学びのサポートをしています。

10月は佐々木知彦研究員による、速読やクリティカル・リーディング、精読といった、いくつかの読み方を体験することで、自分と読書の関係を考えました。11月は、授業でLA（ラーニング・アシスタント）を務める学部生が担当し、文章要約やグループワークのポイントを学びました。学生同士で学びあうピアラーニングのスタイルです。12月は岩崎千晶准教授による電子黒板を活用したプレゼンテーションに関するCaféを実施しました。

また「教職ラーニングCafé」も開催しています。教職志望の学生が集まり、教育実習の様子や教職を目指す理由、教育への思いなどについて意見を交換する場です。毎年採用試験に合格した学生が講師としてその経験談を話してくれる場でもあります。

3月には卒論を書き終えた4年生が、その体験談を基に下級生らと話し合う「卒論Café」も予定しています。どれも学部垣根を越えて、気軽に学べる機会です。リピーターの学生さんも見られるようになりましたので、今後もより良い学習支援の場を広げて参ります。ぜひ学生さんに勧めて頂きますようよろしくお願いします。



「バリアにねこばんち！ちゃれにゃんずワークショップVol.0」開催

報告者：LA 文学部3年 増田 優奈
(教育推進部 山本 敏幸)

10月15日（木）、総合図書館ラーニングコモンズにて、「ちゃれにゃんずワークショップVol.0」が開催されました。挑んだバリアは「聴障学生とグループワーク」。本学LAと手話サークルから募った14名の参加者と、難聴学生の三村杏子さん（文3）を招いて実施しました。

簡単なレクチャーから聴障学生のグループワーク参加を阻むバリアについて学んだあと、「自分史」のワークでバリアのないグループワークに挑戦してもらいました。今後は対象を広げたワークショップを開催し、アクティブ・ラーニングを巡るバリアに挑みたいのです。



「バリアにねこばんち！ちゃれにゃんずワークショップVol.1」開催

報告者：LA 文学部3年 増田 優奈
(教育推進部 山本 敏幸)

11月5日（木）、凜風館にて「ちゃれにゃんずワークショップVol.1」が開催されました。挑んだバリアは「グループワークの先入観」。本学学生など計11名が参加し、「まわしよみ新聞」のワークを通して初対面の人と楽しく話す経験をしてもらいました。

「たくさん話した方がよい」と思われがちなグループワークですが、相手の話を聞く姿勢も重要です。どのグループもお互いの意見を聞きあおうと意識しており、全員の思いが詰まった「まわしよみ新聞」ができました。今後も、誰もが楽しめるグループワークの実践を目指します。



「交渉学×ちゃれにゃんず→ねごちゃれ！ Vol.3」開催

12月24日（木）、凜風館1階コラボレーションコモンズにて、ちゃれにゃんず主催の交渉学ワークショップ「ねごちゃれ！ Vol.3」が開催されました。本学と追手門大学の学生、社会人の方に参加いただき、耳のきこえない方に手話通訳等を行う手話サークルの学生も含め、過去最多の18名で開催されました。挑んだバリアは「孤立と対立」。日常生活での交渉シーンから、交渉学の基本である「相手の立場を考える」大切さを学び、シンキングツールによる可視化を実践して、対立を乗り越えるための第一歩を踏み出しました。今後もワークショップを通じてさまざまなバリアに挑みたいと思います。

「HAPPINESS IS…」ワークショップ活動報告 2015年11月18日

報告者：LA 文学部4年 倉橋 彩乃
(教育推進部 山本 敏幸)

- ・目標：幸せとはなにかを考え、気づき、自分にとっての幸せを考え直す。
- ・人数：5人
- ・流れ：①アイスブレイク
利き手でないほうの手で自分の名前を書く。
リズムネーム（リズムに合わせて参加者同士の名前を呼び合い覚える。）
②『HAPPINESS IS…』の本紹介
③思いつく幸せを付箋に書き、共有、分類。
④自分の『HAPPINESS IS…』の1ページをつくり、発表。
⑤絵本『どんなかんじかなあ』読み聞かせ
⑥アンケート



- ・参加者の声
○幸せがいっぱいあるという幸せを発見した。
○色々な幸せの形を見ることができた。
○日常のふとした瞬間を幸せだと捉えることができた。
○幸せであふれていた。

- ・改善ポイント
☆宣伝をもっとするべき。
☆ワークの流れ、時間等を最初に示すべき。
☆黒のマジックはもっと必要。
☆分類は時間がかかる。時間配分。

- ・感想
初めて自分でワークショップをつくってみて、まず実行までこぎつけたことが嬉しかった。チャレンジする提案や環境を与えてくださった先生方や参加してくれたLAの皆さんのおかげだ。自分の好きなものでワークショップをつくり、やってみるのはとても楽しかった。「笑顔や楽しめる雰囲気づくりがよかった」、「テーマそのもの、幸せな気持ちになれた」などの感想が嬉しかった。一方で、改善点も発見できてよかった。ワークの意味がもっと伝わるようにする必要がある。今していることはなぜしているのかという理由づけをすることで、ワーク全体がもっとつながって参加者に思いを伝えることができる。また、宣伝をもっと積極的にして、人数が多かったらまた違った時間配分や内容になっただろう。今回は練習としてなので、あの規模でできたのもいい経験だった。教師になるまでの経験として、とても貴重で素敵なことができた。時間の許す限り、さらにチャレンジしていきたい。

第13回関西大学FDフォーラムの開催 2015年6月27日 午前

6月27日、関西大学千里山キャンパスにおいて、第13回関西大学FDフォーラム（全国私立大学FD連携フォーラム後援、関西地区FD連絡協議会協賛）を開催しました。今回のフォーラムは「交渉学のFuture Design－交渉学を身体化する－」をテーマに、教員がそれぞれの授業において、その必要に応じて交渉学のエッセンスを導入することができることを目標におこないました。交渉学のメソドロジーについて、具体的な例を用いてインストラクションを行い、その後に「デモ授業」を実施した上で、解説を加える形式でおこなわれました。



講師には一色 正彦 氏（金沢工業大学大学院 知的創造システム専攻 客員教授 他）をお迎えし、三浦 真琴（関西大学 教育推進部 教授）、山本 敏幸（関西大学 教育推進部 教授）、田上 正範（関西大学 非常勤講師、追手門学院大学 准教授）、松木 俊明（関西大学 非常勤講師、弁護士）がファシリテーターとしてサポートをしました。採択されたAPにおいて、アクティブラーニングの成果をどのように可視化するかという課題に対し、「交渉学」の導入に着手してきました。ハーバード大学で培われた「交渉学」とは、これから社会に巣立っていく学生にとって、社会人基礎力の根幹をなす信頼関係構築に必要なコミュニケーション能力です。このコミュニケーション能力は学生のみならず、第一線で活躍する社会人の間でも学び直して価値の見いだされている分野です。交渉学の基礎概念とその実践をさまざまな授業でマイクロインサージョンすることで、共通教養科目のみならず専門科目の分野でより人間性のある人材を輩出できることが期待されています。

講演では、交渉学の基礎概念について説明があり、さまざまな基礎教養科目でどのように交渉学をマイクロインサージョンすればいいかについて、参加者と一緒に考えていきました。各グループによる話し合いでアイデアを共有し合い、全体で共有し、一色氏のフィードバック・コメントをいただきました。

講演会の内容につきましては、動画配信を検討中です。

- 【スケジュール】
10：00－10：15（15分）開会宣言～講師紹介（関西大学）
10：15－11：00（45分）交渉学の授業方法
11：00－11：45（45分）デモ授業と解説
11：45－11：55（10分）質疑応答
11：55－12：00（5分）閉会挨拶（関西大学）

主催：関西大学 教育開発支援センター
後援：全国私立大学FD連携フォーラム
協賛：関西地区FD連絡協議会

第13回 関西大学FDフォーラム
交渉学のFuture Design
－交渉学を身体化する－

2015
6.27 10:00-12:00 入場料：無料
関西大学 千里山キャンパス 第2学舎 3号館 3階 E301教室
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 阪急電鉄「関大前」駅下車 徒歩9分

【講師】
金沢工業大学大学院 知的創造システム専攻 客員教授 一色 正彦氏
慶応義塾大学 文学部 経済学系 非常勤講師 三浦 真琴
東北大学 工学部 工学系 非常勤講師 山本 敏幸
関西大学 教育推進部 教授 田上 正範
関西大学 非常勤講師 松木 俊明

【スケジュール】
10:00-10:15(15分) 開会宣言～講師紹介 (関西大学)
10:15-11:00(45分) 交渉学の授業方法
11:00-11:45(45分) デモ授業と解説
11:45-11:55(10分) 質疑応答
11:55-12:00(5分) 閉会挨拶 (関西大学)

【会場案内図】
第2学舎 3号館 3階 E301

【お問い合わせ先】
6/22(月)までに、電話/Webサイト http://www.kansai-u.ac.jp/ でお知らせください。
※当日参加も可能です。
【お問い合わせ先】
関西大学 教育開発支援センター 事務局
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-1513 E-mail:ap_info@mt.kansai-u.ac.jp

第4回交渉学ワークショップの開催 2016年2月20日

2月20日、関西大学千里山キャンパスにおいて、第4回交渉学ワークショップを開催しました。

関西地区でのさらなる「交渉学」の普及、啓蒙活動の一環として、大学生や大学生のアクティブ・ラーニングによる学びに関心をお持ちの社会人や大学関係者を対象に、信頼を構築・維持する為のコミュニケーション力を身につけるワークショップをおこないました。

参加者は、午前の部は、52名（本学学生 13名、他学学生4名、一般社会人17名、教職員8名、高校教諭1名、講師役学生9名）、午後の部は、29名でした。

ワークショップの構成は2部構成でおこないました。

午前の部は、学生リーダーによる交渉学ミニセッションをおこないました。

交渉学LA自ら、大学生としての実生活から抽出し、準備した教材コンテンツを使って、4つ同時にミニセッションをおこないました。参加者は、前半、後半で2つのセッションに参加できるという手交です。

● 関西大学から

- (i) * 「関大交渉学授業を体験！～初めてのMZB～」 金田有紗（社会学部3年）・福長英未（社会学部3年）
- (ii) * 「学生×社会人 交渉学で起こす化学反応」 松田昇子（政策創造学部3年）・田中真奈（商学部2年）事例紹介：富士ゼロックス、日本IBM
- (iii) 「障壁なき交渉学への挑戦」 増田優奈（文学部3年）・倉橋彩乃（文学部4年）事例紹介：ちゃれにゃんずー手話・情報保障を導入したワークショップできこえのバリアに挑む
- (iv) 「初めての交渉学～なぜ交渉をするのか～」 濱走内記（政策創造学部2年）・沖彩乃（法学部1年）

* (i) (ii)は合同セッション形式

● 追手門学院大学から

- (iv) 「私たちも交渉学リーダー～1年生チームで挑むワークショップ」 小南孝顕（経営学部1年）、大野順也（経営学部1年）、小室ひな（心理学部1年）

今回の特徴は2点挙げられます。

1. 大学生自らが大学生活を反映した交渉学コンテンツを作成し、それを使って交渉学のワークをおこなったこと
2. 聴覚障害を持つ学生、一般の参加者も交えて、手話を併用しながら、交渉学のワークをおこなったこと

午後の部は交渉学学生リーダーのための研修・ワークショップで、午前の部の講師役のリーダーに対しては、ふりかえりと反省のセッションをおこない、交渉学の教材コンテンツ作成に興味を持つ一般社会人参加者や学生たちには、グラフィック・オーガナイザーという手法で、日常で起こりうるケースを題材にして交渉学ワークのための教材コンテンツを作成する研修をおこないました。

出来上がった教材コンテンツは、新学年度から使用する交渉学ルーブリックを使い評価してもらいました。



富士ゼロックス（株） VHP 交渉学コミュニティの交渉学勉強会 報告書

山本 敏幸

富士ゼロックス株式会社 VHP 交渉学コミュニティの交渉学勉強会が2016年3月5日に横浜みなとみらい富士ゼロックス価値創造センターでおこなわれました。参加者は、富士ゼロックス社、日産自動車、三菱重工業、三菱日立パワーシステムズ、日立製作所、ジョンソンコントロール、アクセンチュア等12社より35名の方々でした。

本学の交渉学LAの濱走君、大早さん、田中さんがチームファシリテーターとして参加しました。講師は富士ゼロックス知的財産部、阿部さん、TAとして、本学研究員の竹本さん、交渉学アドバイザーの三好さん、富士ゼロックス側の山下さん、池田さんほか9名が担当しました。

全体的な流れは、まず、交渉学コミュニティの紹介、交渉学の基礎を学び、次に、「ビクトリノックス」のケース教材を使って、状況把握、ミッション、ZOPA、BATNAの設定のための事前準備演習をおこないました。その後、模擬交渉の準備の作戦会議を経て、模擬交渉をおこないました。交渉後は、俯瞰的な振り返りのための感想戦、最後に全体フィードバック、アンケート記入という3時間のプログラムでした。

最後に感想を述べると、参加者は20代から30代の方々がほとんどで、日頃の業務の中での社会人としての信頼の構築の解決の糸口にならないかを模索している様に見受けられました。若い世代が交渉学に興味を持ち、価値を見いだしてくださるのは非常にうれしいことです。

